

10 図書・学術情報に関する事項

図書館は、大学の学術・研究活動の拠点として、大学の教育及び研究に必要な図書・雑誌等の学術資料を、各教育主体と共に、精力的に選書・収集した。また、データベース(電子ジャーナルを含む)の充実にも力を注ぎ、これら資料を利用者が効率的・効果的に活用できるように、各種説明会及び講習会を実施した。

図書館では、環境整備として、図書館システムの機能を一部追加し、インターネット利用環境の向上をはじめとした利用者の至便、図書館業務の効率化を目指した。また深草図書館の閲覧什器のリプレイス等も実施した。その他、大学が所蔵する図書や学術資料を、定期的な展覧により、大学関係者のみならず多くの一般市民に公開した。

さらに、図書館が抱える多岐にわたる課題のうち、特に第5次長期計画において具体化が急がれる事項(①図書館における学習支援機能の充実、②外部データベースの効果的・効率的な導入)について、図書委員会のもとにワーキンググループを設置し、関係教職員が参画し事業の具体化に向けて検討を開始した。

1 図書・学術情報を活用した教育支援

●蔵書構成の充実

「図書収書計画」にもとづき、図書館員(専任事務職員)と、深草図書館にあっては学生アルバイトが学習用図書(基本図書)の選書に努めるとともに、新たにパイロット的に学生アルバイトによる選書ツアーを実施した。また、学生からの「希望図書」、教職員からの「推薦図書」制度を活用することで、学習用図書の充実を図った。

●利用者教育の充実

学部生や大学院生を対象に、オンラインデータベースを活用した、図書・雑誌・論文・新聞記事等の基本的な調べ方や、レポート・論文作成・企業情報収集のための情報検索法について、講習会を定期的に開催した。

●利用者への情報提供

図書館利用ガイド『LIBRARY GUIDE』、図書館広報誌『来・ぶらり』を発行し、新入生等に配付した。また、HP上でもこれを公開し、図書館活動の広報と利用の促進を促した。

2 図書・学術情報を活用した研究支援

●電子ジャーナルや学術データベースの収集

リンクリゾルバシステムの本格導入を契機として、大学が所蔵する46種類のデータベースや約4,000タイトルの電子ジャーナルの検索機能を向上し、必要なデータベースから迅速、正確に一次資料に辿り着くことが可能となり、質の高い教育・研究の支援に貢献した。

●図書館所蔵資料のデジタル化・情報発信

古典籍デジタルアーカイブ研究センターと連携し、大谷文書をはじめとする貴重資料のデジタル化ならびに情報発信を日常的に行なった。

●学術リポジトリの運用

2009年度に電子化した学位(博士)論文を初期コンテンツとして、龍谷大学学術機関リポジトリ(R-SHIP)を2010年6月に正式公開した。年末には学内紀要論文の公開も実施し、コンテンツの充実に努めた。



図書の蔵書状況および2010年度の図書館利用状況

図書館名	蔵書状況							視聴覚資料 の所蔵数 (点数)	電子 ジャーナル ・データベ ースの種類	2010年度 利用状況		
	図書の冊数（冊）				雑誌の種類					入館者数	館外貸出し	
	国内書	外国書	合計	開架図書 (内数)	和雑誌	洋雑誌	合計				冊数	人数
深草図書館 (社会科学研究所を含む)	504,863	340,889	845,752	341,358	4,940	2,657	7,597	32,016	47	351,752	83,585	44,499
大宮図書館	543,354	144,183	687,537	276,410	4,871	517	5,388	5,339		115,356	48,255	24,753
瀬田図書館	242,443	134,527	376,970	375,146	2,041	1,146	3,187	13,573		261,803	54,859	28,572
深草図書館分室	27,412	2,646	30,058	29,133	322	59	381	264		97,330	1,456	879
計	1,318,072	622,245	1,940,317	1,022,047	12,174	4,379	16,553	51,192	47	826,241	188,155	98,703

3 図書・学術情報利用環境の整備

● 図書館システムのリニューアル

図書館システムのリニューアルの年次計画として、図書発注システムの改善とWebサービスの充実を図った。

● 図書館什器リプレイス

深草図書館において、老朽化の著しい閲覧室の机・椅子等の什器リプレイス（4年計画の1年目）を行い、学習環境の改善を行った。併せて、瀬田図書館においては、書架と閲覧機の増設を実施した。

● 日曜開館等の実施

利用実態と利用者ニーズならびに開館に伴う効果等を踏まえ、2009年度にならい、日曜開館等を実施した。さらに大宮図書館において、2009年度に引き続き年末・年始及び2月上旬の学修時期に開館及び時間延長を実施し、利用者の満足度向上に努めた。

4 図書・学術資料の公開と施設の開放

● 図書館資料・所蔵コレクションの公開

大宮学舎本館展覧室において、2010年度春季特別展「大谷探検隊展－将来品と個人コレクション」及び2010年度秋季特別展「近世庶民の信仰と学びと娯楽」を実施し、本学が所蔵する図書・学術資料を、教職員・学生はもとより一般市民にも公開した。また深草図書館並びに瀬田図書館において、所蔵コレクションを中心としたミニ展覧を行った。

● 滋賀県下の高校生等への図書館開放

大学図書館の地域開放政策の一環として、従来のREC会員等に加え、期間を定めて滋賀県下の高校生に対する瀬田図書館の開放を、2009年度と同様に実施した。

● 図書館資料のインターネット上での公開

先に挙げた「古典籍のデジタルアーカイブ化」ならびに「学術リポジトリの構築」において、各コンテンツをインターネット上で公開し、研究成果や学術的価値の高い資料の社会的還元を行った。